

安全データシート (SDS)

1. 製品および会社情報

製品名 : NRプライマーPV 主剤
会社名 : 三ツ星ベルト株式会社
住所 : 神戸市長田区浜添通4丁目1-21
電話番号 : 078-682-3379
FAX番号 : 078-685-5681
作成日 : 2021年4月12日
改定日 : 2022年5月21日
整理番号 : K-948

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分2

健康有害性

急性毒性 経口 : 区分に該当しない

経皮 : 区分に該当しない

吸入; 気体 : 区分に該当しない

吸入; 蒸気 : 分類できない

吸入; 粉塵、ミスト : 分類できない

皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B

呼吸器感作性 : 分類できない

皮膚感作性 : 区分に該当しない

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 分類できない

生殖毒性 : 区分2

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分3 (気道刺激性、麻酔作用)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない

誤えん有害性 : 分類できない

環境有害性

水生環境有害性 (急性) : 区分に該当しない

水生環境有害性 (長期間) : 区分に該当しない

オゾン層への有害性 : 分類できない

【GHSラベル要素】

[絵表示]



[注意喚起語]

危険

[危険有害性情報]

H225 引火性の高い液体及び蒸気

H320 眼刺激

H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

(気道刺激性) 呼吸器への刺激のおそれ

(麻酔作用) 眠気またはめまいのおそれ

[注意書き]

[安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)

容器を密閉しておくこと (P233)

防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／工具を使用すること。(P241)

火花を発生させない工具を使用すること。(P242)

静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。(P261)

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること (P271)

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

[応急措置]

皮膚 (又は髪) に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)

吸引した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。(P304+P340)

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当を受けること。(P308+P313)

気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)

眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当を受けること。(P337+P313)

取り扱い後は、手を洗うこと。(P264)

[保管]

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)

施錠して保管こと。(P405)

[廃棄]

内容物や容器を、国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

有害性：

知見なし

環境影響：

知見なし

物理的及び科学的危険性：

強い引火性がある。

熱、火花及び火炎で着火することがある。

重要な徴候：

特になし

想定される非常事態の概要：

特になし

国／地域情報：

引火性液体

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：
混合物
化学名又は一般名：
ポリイソシアネート類溶液
化学式：
非公開
GHS 分類に寄与する不純物及び安定化添加物：
特になし

4. 応急措置

吸入した場合

呼吸が止まっている場合は、衣服をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。
蒸気、ガスなどを吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時には、医師に連絡すること。
体を毛布等でおおい、保湿して安静を保つ。
直ちに医師の手当てを受ける。
被災者を直ちに新鮮な空気の場所に移動させる。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。
外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は直ちに医師の手当てを受ける。
製品に触れた部分を直ちに水または微温湯を流しながら洗浄する。
石鹸を使ってよく落とす。
大量の水および石鹸または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
必要であれば衣類、靴などを切断する。
付着物を布にて素早く拭き取る。

眼に入った場合

清浄な水で最低 15 分間目を洗浄した後、直ちに眼科医の手当てを受ける。
洗顔の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
直ちに、医師に連絡すること。
直ちに大量の清浄な流水で 15 分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す事すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。

飲み込んだ場合

医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
直ちに医師の処置を受ける。
被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。
必要に応じて、人口呼吸や酸素吸入を行う。
無理に吐かせてはならない。
嘔吐物は飲み込ませないこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状

特になし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

汚染された衣類や保護具を取り除く。
救助者が有害物質に触れたり、吸引したりしないよう適切な保護具を使用するなど注意す

る。

適切な保護具（保護メガネ、防塵マスク、手袋等）を着用する。換気を行う。

医師に対する特別な注意事項

特になし

5. 火災時の措置

適切な消火剤：

炭酸ガス、泡、粉末

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

使ってはならない消火剤：

水（棒状水、高圧水）

冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

火災時の特定危険有害性：

特になし

特有の消火方法

移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

可燃性のものを周囲から素早く取り除く。

高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。

指定の消火剤を使用すること。

周囲の設備等に散水して冷却する。

消火のための放水等により、環境に製品が流出しないよう適切な措置を行う。

消火作業は可能な限り風上から行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置：

消火活動は風上より行う。

消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク、給気式呼吸用保護具）を着用する。

適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項・保護具及び緊急時措置：

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。

周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。

付近の着火源・高温体および付近の可燃物を素早く取り除く。

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣、ろ過式呼吸用保護具、給気式呼吸用保護具等を着用する。

環境に対する注意事項：

河川への排出により、環境への影響を起ささないように注意する。

流出した製品が河川や下水等に排出され、環境に影響を起ささないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：

乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。

少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。

衝撃、静電気にて火災が発生しないような材質の用具を用いて回収する。

大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。

漏出物は、密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。

二次災害の防止策：

- 火花を発生しない安全な用具を使用する。
- 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

[技術的対策]

- 換気の良い場所で取り扱う。
- 取り扱いは、換気のよい場所で行う。
- 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
- 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
- 皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、目に入らぬようにする。
- 保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。
- 容器はその都度密栓する。
- 漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

[局所排気・全体換気]

特になし

[安全取り扱い注意事項]

- 炎、火花、高温体との接触を避ける。
- 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
- 取扱う場合は、局所排気内で取扱う。

[衛生対策]

作業後、手をよく洗い、うがいをしてから喫煙、飲食等をする。

保管

[技術的対策]

- 通風のよいところに保管する。
- 日光の直射を避ける。

[安全な保管条件]

- 火気、熱源から遠ざけて保管する。
- 火気厳禁。
- 直射日光を避け、換気のよい場所で、容器を密閉し保管する。
- 保証期限を過ぎた製品は速やかに廃棄する。

[安全な容器包装材料]

適切な容器包装材料

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策：

密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。

許容濃度：

設定されていない

保護具

- 呼吸用保護具：作業を行う場合には、適切な保護マスクを着用すること。
必要に応じて、有機ガス防毒マスク、送気マスク等を使用する。
- 手の保護具：保護手袋を着用する。
有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
- 眼、顔面の保護具：取扱には保護メガネを着用すること。
保護眼鏡または防災面を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具：取り扱う場合には、皮膚を直接曝さないような衣類を着けること。ま

た化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。
保護衣および必要に応じて保護長靴、保護前掛けを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	: 液体
色	: 淡黄色透明
臭い	: 特有の臭気
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 90°C
可燃性	: 該当しない
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: 下限界 1.5Vol%、上限界 12.9Vol%
引火点	: 18°C
自然発火点	: 333°C
分解温度	: データなし
pH	: 該当しない
動粘性率	: 該当しない
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: 1.04g/cm ³
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: 該当しない

10. 安定性及び反応性

反応性	: 特になし
化学的安定性	: 保管の項目記載の保管条件で決定。
危険有害反応可能性	: 強酸、強アルカリと反応する恐れがある。 有機物であるため、酸化性物質と接触すると、発火、爆発の危険性がある。
避けるべき条件	: 直射日光、炎、火花、高温体との接触を避ける。
混触危険物質	: 特になし
危険有害な分解生成物	: 特になし

11. 有害性情報

急性毒性	: データなし
皮膚腐食性/刺激性	: データなし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: データなし
誤えん有害性	: データなし

12. 環境有害情報

生態毒性	
魚類	: データなし
甲殻類	: データなし

藻類 : データなし

残留性／分解性 : データなし
生態蓄積性 : データなし
土壌中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : データなし
他の有害影響 : 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。特に、製品や洗浄水が、地面、川、排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）及び関係法規、法令を遵守して、適正に処理する。
汚染容器および包装 : 空きの汚染容器および包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）及び関係法規、法令を遵守して、適正に処理する。

14. 輸送上の注意

国連番号 : 1263
品名（国連輸送名） :
国連分類 : 3:引火性液体
容器等級 : II
海洋汚染物質 :
MARPOL73/78 付属書 II 及び IBC コードによるばら積輸送される液体物質 :
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 :
国内規制
陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送 : 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送 : 航空法に定められている運送方法に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件 :
輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。密栓してあることを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
火気厳禁。
応用措置指針番号 :
128 : 塗料（引火性）

15. 適用法令

<製品>

労働安全衛生法施工令別表 1—4 引火性の物
消防法第 2 条危険物 別表第 4 類 引火性液体（第 1 石油類・非水溶性液体）

16. その他の情報

参考資料

JIS Z 7252 (2019)
JIS Z 7253 (2019)
GHS 改定 7 版 (2017)

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム
各原料の安全データシート
実務者のための化学物質法規制便覧2020版（化学工業日報社）

本安全データシート（SDS）は、現時点で入手できた資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、SDS中の注意事項は通常の見取りを対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は、用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。また、当社は、SDS記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。